

© EPODOC / EPO

PN - JP10310150 A 19981124
 PD - 1998-11-24
 PR - JP19970152791 19970507
 OPD- 1997-05-07
 TI - CARRYING BAG FOR POWDER MILK
 IN - SUGIYAMA EMIKO
 PA - SUGIYAMA EMIKO
 IC - B65D33/00 ; B65D30/28 ; B65D33/25

© WPI / DERWENT

TI - Milk powder bag - has thin lower part with break provided for cutting at end
 PR - JP19970152791 19970507
 PN - JP10310150 A 19981124 DW199906 B65D33/00 002pp
 PA - (SUGI-I) SUGIYAMA E
 IC - B65D30/28 ; B65D33/00 ; B65D33/25
 AB - J10310150 The bag is made of plastics and is of funnel-shape. The upper part of bag body (1) contains a wide opening and a open- closable chuck (2). The lower part of the bag body is made very thin and a break (4) is provided for cutting at the end.
 - ADVANTAGE - Excels in economy. Is easily disposable and sanitary. Reduces weight of bag.
 - (Dwg.1/2)
 OPD- 1997-05-07
 AN - 1999-064478 [06]

© PAJ / JPO

PN - JP10310150 A 19981124
 PD - 1998-11-24
 AP - JP19970152791 19970507
 IN - SUGIYAMA EMIKO
 PA - SUGIYAMA EMIKO
 TI - CARRYING BAG FOR POWDER MILK
 AB - PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a light-weight economical disposable small bag for carrying which can be cut at the front end and inserted into a nursing bottle, by forming a freely openable/closable wide opening at the upper part of a synthetic resin bag having a funnel-shape and forming a slender shape at the lower part.
 - SOLUTION: A bag body 1 is made of synthetic resin to form a carrying bag for powdered milk which is light-weight and compact on carrying it. Powdered milk is charged in the bag body1 from the upper opening while measuring it. And the upper chuck is closed and the bag is carried. When preparing milk, the front end at the lower part of the bag is cut off and the lower part of the bag is inserted in a nursing bottle to feed the powdered milk into the bottle. In this way, the bag body1 is used as a funnel for preparing milk in common and it is made disposable to hygienically prepare milk. A large spoon can be used for preparation of milk by forming a wide opening and hence, a necessary quantity for one time for an infant can be measured and charged therein.
 I - B65D33/00 ; B65D30/28 ; B65D33/25

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-310150

(43) 公開日 平成10年(1998)11月24日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

B 6 5 D 33/00

B 6 5 D 33/00

C

30/28

30/28

M

33/25

33/25

A

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平9-152791

(71) 出願人 597082061

杉山 恵美子

(22) 出願日 平成9年(1997)5月7日

千葉県松戸市根木内79番地

(72) 発明者 杉山 恵美子

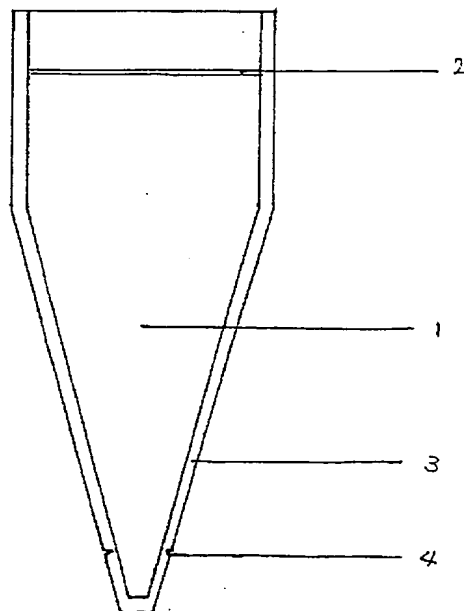
千葉県松戸市根木内79番地

(54) 【発明の名称】 粉ミルク携帯袋

(57) 【要約】

【課題】粉ミルク携帯時の不便さや、不経済さという問題を、解決する粉ミルク携帯容器の提供を目的とする。

【解決手段】粉ミルク携帯袋は、袋本体が漏斗型をした使い捨ての合成樹脂製の袋である。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】袋本体の上部に広い開口部と開閉自在なチャックがある。袋本体の下部は細く、先端は簡単に切り取ることができる。漏斗型の合成樹脂製の袋である。

【請求項 2】請求項1のチャックの代わりに粘着材を使用した袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属す技術分野】この発明は粉ミルクを携帯するための容器に関する発明である。

【0002】

【従来の技術】従来粉ミルクを携帯するには、主に次の方法と欠点があった。

(1) 育児用品メーカーの粉ミルク携帯器を利用する。容器の大きさが内容量にくらべて大きく、携帯の際にかさばる。繰り返し使用するため、使用後の空容器を持ち歩かなければならない。数回の調乳に対し、調乳用漏斗が一つしかないため、湿気で漏斗内部が不衛生になりやすい。

(2) 粉ミルク製造メーカーの携帯用小袋を利用する。粉ミルク大缶に比べ、価格が割高である。一袋あたりの調乳量が決まっており、乳児の必要量を調乳するためには余分に携帯しなければならず、不経済である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この発明は従来の粉ミルク携帯時の不便さ、不経済さという問題を、解決する粉ミルク携帯容器の提供を目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】この発明の粉ミルク携帯袋は、袋本体が漏斗型をした合成樹脂製の袋で、上部に開閉自在な広い開口部をもち、下部は細く、哺乳瓶の内部に差し込むことができる。下部先端は簡単に切り離す

ことができる。

【0005】

【発明実施の形態】この発明の粉ミルク携帯袋は合成樹脂製の袋であるから、携帯の際軽量でかさばらない。袋本体が使い捨てて携帯用の袋と調乳用漏斗を兼ねているため、漏斗部分を繰り返し使用することなく、衛生的に調乳することができる。又、広い開口部は調乳用大型スプーンを楽に使用することができる。開閉自在な開口部は乳児の一回分の必要量を計り入れることができる。又、一度入れた粉ミルクの量を再調整することができる。

【0006】

【実施例】粉ミルクを計量しながら上部開口部より袋本体に投入する。上部チャック、又は粘着材によって開口部を閉じ携帯する。調乳時は、袋下部先端を切り離し、哺乳瓶内に袋下部を差し込むようにして内部の粉ミルクを投下する。

【0007】

【発明の効果】この発明は軽量で、経済性にすぐれており、使い捨てで衛生的である。何より、一部の特殊な粉ミルクを利用している場合、粉ミルク製造メーカーでは、携帯用小袋を販売していない為、この発明を利用すればより外出が楽になるであろう。又、託児所のような子供の多い所ではこの発明の袋本体に油性ペンで乳児の名前や量を記入しておけば、ミルクの取り違いを防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

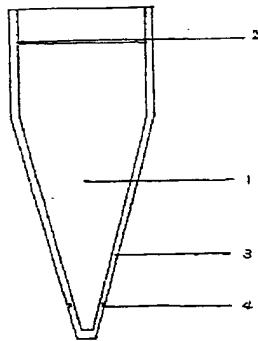
【図 1】請求項1による正面図である。

【図 2】請求項1による断面図である。

【符号の説明】

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 1 袋本体 | 2 チャック | 3 接着部 |
| 4 切り込み | | |

【図1】



【図2】

